令和６年度小平市立小平第十三小学校～「全国学力・学習状況調査」結果概要～

１　調査目的・対象

児童・生徒の学力や学習状況を把握・分析し、成果と課題を検証し、その改善を図るとともに、今後の児童・生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てるための調査です。

２　調査内容

（１）教科に関する調査

身に付けておかなければ後の学年等の学習内容に影響を及ぼす内容や、実生活において不可欠であり常に活用できるようになっていることが望ましい知識・技能等、また、知識・技能を実生活の様々な場面で活用する力や、様々な課題解決のための構想を立て実践し評価・改善する力等に関することを児童が答える調査です。

（２）生活習慣や学習環境等に関する質問紙調査

学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面等に関することを児童が答える調査です。

３　各教科の調査結果の分析

【国語】

状況の分析	課題
国語の平均正答率は、東京都平均と同等で、全国平均を２ポイント上回った。特に選択式の問題の正答率は高く、１０問中７問が平均を上回り、うち２問は１０ポイント以上も上回っている。一方で記述式問題の正答率が低く、特に漢字は２問とも全国の平均を７ポイント下回る結果になっている。	選択式に比べ、記述式の問題の正答率が著しく低く、無回答率が高い。直前の選択式問題の正答率が高いことから、文章の内容は理解できているものの、それを自分ごとと捉え、考えや気持ちを表現することへの困難さがうかがえる。無回答の多さから、文章の型の習得が必要である。

学校で取り組む具体的な改善策

・文章を書き表現する活動では、意見の共有やグループ活動を行う前に、自分の意見をじっくりと考え、文章に整理していく時間を確保する。どのような書き出しが適切か、重要な語や文をどう扱うかなど、文章構成の例を示しながら、書く経験を蓄積する。また、目的や意図に応じて、事実と感想、意見とを区別して書くことを意識させ、自分の考えが伝わるように書き表す工夫を指導していく。
・漢字を正しく覚え活用できるよう、学習者用端末の学習アプリを効果的に活用しながら、復習の時間を充実させる。朝学習の時間を中心に、他教科においても漢字を正しく読み、書き表せるように言葉掛けしていく。漢字を形だけでとらえるのではなく、その使い方も合わせて学べるよう指導していく。

【算数】

状況の分析	課題
算数の正答率は、東京都平均、全国平均よりも下回る結果となっている。特に「データの活用」領域では７ポイント下回った。「図形」領域の正答率は、東京都平均、全国平均を上回っており、特に直方体の見取り図は９割以上の児童が正答を示している。	「データの活用」領域では、折れ線グラフから必要な数値を読み取り、言葉や数で答える問題で誤答が多かった。示された条件を理解し、それに当てはまるか思考する点での困難さが表れている。体積や速さの問題では、１割以上の無回答があり、公式の十分な理解と習熟が必要である。

学校で取り組む具体的な改善策

・習熟度別指導を通して、児童の実態に応じた指導を継続する。算数学習ボランティアを積極的に活用し、グラフの読み取りや比較する活動での手助けなど、個に応じたきめ細かい指導をしていく。
・朝学習や授業後半の練習問題を解く時間では、東京ベーシック・ドリルや学習アプリを活用する。無回答の多かった速さや体積などの内容について、公式を暗記するのでなく、なぜその式になっているのか確認し復習することで、学習内容の定着を深いものにする。
・問題→めあて→自力解決→グループ交流→全体交流→まとめ→練習問題という流れで授業を展開する。その際、自力解決の時間を十分に確保することで、問題で示された条件をしっかりと理解できるように指導していく。ヒントカード等を用いて、個別最適化された学習を行う。
・学習者用端末の活用や体験的な活動を取り入れ、論理的な思考の基に作図ができるようにする。

【質問紙】　　状況の分析

①「将来の夢や目標を持っていますか」という質問に対して、９割近い児童が肯定的な回答をし、特に「当てはまる」と答えた児童は、東京都の平均を５ポイント以上、上回っている。
②「学校の授業時間以外に、普段（月曜日から金曜日）、１日当たりどれくらいの時間、勉強をしますか。」という質問に対して、１時間以上という回答が多かったが、３０分より少ないと回答した児童も３割程度いる。
③「学習の中で PC・タブレットなどの ICT 機器を使う」という質問について、最も肯定的な回答をした児童は、東京都や全国の平均よりも、７項目中６項目が下回っている。特に「分からないことがあった時に、すぐ調べることができる」「楽しみながら学習を進めることができる」の２項目では、１５ポイント以上下回る結果になっている。
④「授業で学んだことを、次の学習や実生活に結び付けて考えたり、生かしたりすることができる」という質問では、肯定的な回答が東京都や全国平均よりも１５ポイント以上、下回っている。

課題

②に関しては、本校では家庭学習の時間の目安として「１０分×学年」を保護者に伝えている。そのため、平日の家庭学習時間は１時間程度確保できることが望ましいが、そうした学習の習慣化がまだ不十分な部分もある。また、習熟の程度に応じた課題、自分に合った学習内容を提示していく必要がある。
③に関しては、５年生までの学習の中で、学習者用端末などの ICT 機器を使う経験が少なかったこと、その有用性にまだ気付いていないことがうかがえる。宿題で学習者用端末を使う、授業中や学習の合間に、分からないことを調べるなど、児童が主体的に操作し、文房具のように活用していけるようにする必要がある。
④に関しては、学習内容の関連を実感できていないこと、その定着が不十分であることが考えられる。教員側がそれらを意識して、授業を組み立てていく必要が感じられる。

学校で取り組む具体的な改善策

・家庭学習の進め方について、保護者会、学年だより、個人面談等を活用し、具体的に保護者に伝えることを継続していく。また、学習者用端末の学習アプリや授業支援ソフトを有効に使いながら、児童が主体的に取り組める課題を設定し、家庭学習のより一層の充実を目指す。
・調べ学習やその発表などを中心に、学習者用端末などの ICT 機器を使う機会を多く設定する。学習支援ソフトを使った意見の共有、学習内容の視覚化によって、授業の内容の理解を深めたり、自分の意見を分かりやすく伝えたりする活動をしていく。
・教科の系統性、教科横断的な学習内容を意識して指導することで、振り返りによる定着や、学んだことを実生活の中で生かしていく経験を増やす。